

〈地域の将来像〉					
地域が目指す姿 (スローガン)	みんなで創ろう、明るく住みよい町「須恵」 —助け合い・支え合い・ す てきな え がおあふれるまちづくり—				
〈地域づくり計画〉					
取り組みの柱 (分野・テーマ)	現状・課題	既存の取組み	今後考えられる取組み	初年度事業プロジェクト案	将来像
子育て支援	(1)子育てで相談できる取組みが必要では (2)子育て世代の若者が少ない (3)子供会が減少している	■ふれあい遊びの会 ■三者交流会(民生児童委員他) ■あいさつ運動(立哨) ■親子ふれあいどんど焼き ■スタディールーム開設	(1)子育て世代が集い相談・情報交換できるイベント施設開設 (2)子育て世代が住みとなる環境づくり、雇用確保の企業誘致 (3)子供会の復活支援(人数不足は他自治会との共同開催)	①図書贈呈：校区内小中4学校、児童館、小野田工業高校 ②学習支援：安価で受講出来る塾開設(教科書復習中心) ③校区・自治会子供会の復活拡充：ポッチャ大会等 ④健康支援：ひとり親世帯にカロリーメイト贈呈 ⑤地域活動参画：まちづくりこども会議の開催	子育て世代が安心して子育て出来るよう 相談・情報交換できる集いの場を提供して 必要な支援が出来るまち。
高齢者支援	(1)買い物が不便 (2)公共交通の利用が不便で運転免許証の返納が難しい (3)高齢者が高齢者を支援している (4)老人会等積極的に参加する老人が少ない	■敬老お祝い事業 ■三者交流会(民生児童委員他) ■会食・宅配サービス ■見守り声掛け訓練 ■須恵小児童の高齢者向け年賀状作成 ■お花見会会食 ■生涯学習クラブ ■認知症カフェ(ご近所おしゃべりカフェ)	(1)買い物代行サービスシステムの確立 (2)地域での高齢者健康支援、地域交通サービスの提供 (3)高齢者が支援される側ではなく子育て等協力できる仕組み作り (4)おしゃべりカフェの増設	①敬老会開催：暑い時期を避けて10月に開催 ②生きがいの創設：校区のカラオケ大会等の開催 ③校区・自治会老人クラブの復活拡充：自治会対抗の 老人ポッチャ大会の開催	高齢者が安心して健康に過ごせるまち 支援される側ではなく支援できる側にいる 元気な高齢者が多くいるまち
生活環境(交通対策等)	(1)野良猫、カラス対策等環境整備 (2)公共交通は無いに等しい、タクシー・マイカーが 機能しないと不便 (3)緊急時の助け合いの移動手段	■あいさつ運動(立哨)交通安全 ■人権研修 ■生活支援部会研修 ■花いっぱい運動	(1)環境問題、ごみ収集、空き家問題の改善 (2)老人や体の不自由な方々へスーパーの移動車と契約(日時・品物・頻度) (3)近所の方々の交流を深め、助け合いの醸成を図る	①生活支援：有償ボランティアの実施（理科大生含む）	子供から高齢者まで皆が笑顔で挨拶できる 快適で便利で住みやすいまち
地域行事	(1)自治会数は多いのに公民館活動やイベントへの参加 が少ない（特に若者） (2)住吉まつりは定着して来たが若者の協力者がもっと 増えればと思う。	■カラーリング大会 ■ふれあい盆踊り大会 ■ふれあい輪かざりづくり ■ふるさと祭、復活住吉まつり	(1)地域の若者を集めるイベント開催(運動会、ソフトボール大会、 新年会 etc) (2)各イベントの実行委員会に参加してもらい、準備段階からの参加者を 増やす。（特に若い世代）	①校区・自治会子供会の復活拡充：ポッチャ大会等 ②校区・自治会老人クラブの復活拡充：自治会対抗 老人ポッチャ大会の開催	地域の特色や強みを生かした行事 まちづくり協議会のメンバーや地域の人々 が元気になる
防災対策	(1)自治会により自主防災のレベルと内容に差がある (2)自治会毎の防災マップ作りが出来ていない (3)訓練への参加が限定的で固定化している	■防災訓練(全自治会対象) ■自治会単位の防災マップづくり	(1)地域防災の取組みがひろがるように出来れば良い （子供を多く参加させると親の参加も増える） (2)ハザードマップだけでなく自治会毎の防災マップ作りの後押し (3)訓練等は自治会に人数割り当て等を行い多くの人の参加を募る	①防災マップのある自治会を増やす ②防災士を増やす	防災意識が高く災害発生時に誰一人取り残さ れない防災対策に取り組むまち
情報発信	(1)地域の情報発信は回覧が主だが見ていない人が多い (2)現状の活動等情報を発信したい方もいる (3)広報誌など見ない人が多いのでは	■月に1度自治会便を通じ広報他回覧実施 ■広報誌”ふるさと須恵”発行 ■交流センターで掲示や案内物の を配布をしている	(1)今の時代に合ったネット環境を利用した情報発信・情報提供（若者向け） (2)行動マニュアルや行事マニュアルを作成して新人でも分かり易くする (3)広報誌も読みやすくイラスト等多く使い注意を引くようにする	①公式LINEで発信・返信（須恵まち協役員・一般の方） ②情報共有：須恵まち協独自のホームページ開設 ③憩いの場づくり：須恵地域交流センターロビーの カフェ化	今の時代や地域の現状にあった情報伝達網、 手段が整備され情報共有のレベルが高い
地域振興(地域活性化)	(1)商工センターの跡地の活用は？ (2)地域活動に参加する人が不足している (3)地域に何らかの貢献したい人は6割程度いる	■地域のおまつり開催 （ふるさと祭り、復活住吉まつり） ■ふれあい盆踊り大会等開催	(1)新しくなる商工会議所が賑やかな場所になることを願う (2)理科大生の活用 (3)若者向けの地域イベントの創設（学校との連携強化、参加促進）	①理科大寮生 & Aスクエア & 須恵地域交流センター の交流事業	情報網や道路等のインフラが整備され地域の 特色や強みを生かした地域づくり
後継者対策(若者の参加等)	(1)主な組織の役員全員が高齢固定化して新たなメンバ が加わりにくい (2)若者が自治会や地域行事に積極的に参加なし	■復活住吉まつりの開催	(1)須恵地域まちづくり協議会に小中高生の代表者に参画して貰う (2)親子参加で地域対抗のスポーツをする 子供が参加すれば親も参加するプランを考え後継者対策に生かす	①地区運営組織への新規加入促進	地域の行事に数多くの子供が、ボランティア として参加していて、地域を愛する心の醸成 が出来ている。結果として地域を愛する大人 も増加する
地域資源(歴史遺産等)	(1)須恵には史跡が沢山あるが地域の人知らない (2)笠井順八や干拓の福井翁、笠井家セメント等の 歴史を知ろうとしない	■笠井順八記念エリア案内板作成 ■ふるさと須恵を知ろう会の活動 ■須恵校区見どころマップ作成	(1)小中学校の地域学習を子供の保護者・地域と一緒にできる取組みにする (2)既存資源の有効活用（若山公園ステージ2、須恵健康公園） (3)笠井順八を大河か朝ドラで売り込む	①須恵村の歴史を学ぼう会	地域の子供たちが地域の歴史を語り、地域に ある史跡の説明ができる
その他	(1)理科大の寮ができる (2)空き家が増えている (3)何歳になっても意欲があり社会参加出来る・・・	■弁護士を講師とする(相続・家・土地 を学ぶ)講座開催	(1)「須恵まちづくり協議会」の発足・目的・取組内容を広く理解して貰う 情報提供が必要 (2)新商工会館の活用 (3)理科大と小野田工業、中学校、小学校との連携が出来れば良い	①法律相談：安価な費用で受けられる法律相談会開催 ②生活支援：有償ボランティアの実施（理科大生含む）	地域の皆さんが安心して暮らせるよう、 地域で助け合い・支え合うまち